

# 令和4年度 第1回浜田市下水道審議会 会議録

日時：令和4年4月14日(木)9時57分～11時35分

会場：市役所本庁舎5階 議会全員協議会室

## 1 上下水道部長あいさつ（要旨）

- ・第1回目の下水道審議会ということで、年度当初のお忙しい時期にもかかわらず、多くの委員の皆様にご出席いただきお礼申し上げます。  
本来であれば新委員を委嘱して初めての会であるため、市長出席の上委嘱状を交付させていただくところであるが、他公務により失礼させていただいた。
- ・前回の開催は平成27年度で、市街地・浜田処理区の下水道整備事業についてご審議いただき、負担金について答申をいただいたが、その後の諸事情により浜田処理区の事業着手が遅れていたところである。
- ・本来であれば資料を事前配布の上、お目通しいただいたうえで審議いただくところであるが、まず下水道事業についてご説明の上、ご審議いただきたいと思い、当日配布させていただいた。また改めて意見集約をさせていただきたい。
- ・これまでの審議会では、主に負担金や使用料についてご審議いただいていたが、今回は経営戦略の見直しについてご意見をいただきたい。また、経営戦略見直し後はその進捗管理等についてもお願いしたい。
- ・下水道の利用者は、基本的には上水道のほうも利用されており、今後は上下水一体となって経営していく必要があるため、基本的には水道の審議会委員の方と重複してお願いしている。
- ・市街地整備は、令和2年度より着手し、令和9年度に優先区域が完成する予定で、供用は令和8年度から、順次開始していきたい。新規の大型事業であり、今後下水道についても経営状況を常に見ていただくことが重要になると思うので、本日はよろしくご審議をいただきたい。

## 2 新任委員及び事務局職員紹介

## 3 欠席委員の報告

税理士法人錦織会計事務所 公認会計士 岸委員が都合により欠席との報告あり。

## 4 会議成立の宣言

本日の出席委員は12名で、浜田市附属機関設置条例第2条により定足数に達している旨の報告あり。

## 5 会長、副会長選出

会長に島根県立大学の鈴木様、副会長に浜田商工会議所の田村様を選出。

## 6 議題審議

資料に基づき、事務局から説明後、次のとおり質疑応答あり。

### (1) 浜田市の下水道事業について

	資料②	発言者	質問等要旨	回答要旨
1	P14 P16	三浦委員	<p>※印で「豪雪地帯」等とあるが、何のための表現なのか。</p> <p>令和6年に公営企業会計へ移行の準備と書いてあるが、すぐ移行できない理由について。</p>	<p>「豪雪地帯」等については、浄化槽の設置に際し、雪の荷重に対する浄化槽の耐荷対策費用として割り増しがあるため。</p> <p>公営企業会計への移行がすぐにできない理由は、現行の官庁会計が現金主義のため減価償却という会計処理を行っておらず、企業会計移行に際し、減価償却費計算のための固定資産の調査業務を現在実施中であるため。</p>
2	P11	渡辺委員	<p>貸借対照表等の下水道使用料以外のその他営業外収益について。</p>	<p>その他の収入のほとんどは、一般会計からの繰入で、総務省からの通知により国の基準内といわれるものとは別に基準外といわれるものがある。これを合わせて2億8千万程度。残りは建設事業に際し国の補助金等が入った場合、それを一旦繰延収益へ計上し、減価償却に合わせて、長期前受金戻入として収益化しているものがある。</p>
3	P10 P13	佐古委員	<p>浜田市の各地区の下水道施設の現況の流入量や稼働率に対して、今接続されている人口が書かれていない。</p> <p>浜田処理区整備事業について、整備面積77haで処理人口2,200人とあるが、処理能力や流入量、稼働率等はどのくらいを見込んでいるのかの記載がないと、現在ある処理区との比較ができない。</p> <p>処理人口2,200人に加え、就業者等の周辺人口を何千人見込</p>	<p>9ページに地域ごとの処理人口と接続人口を記載しており、10ページにも併せて記載したほうが分かりやすかったかと思う。</p> <p>浜田市街地の能力等については、処理人口は住民基本台帳から記載している。商業施設や事業所等の計算はそれぞれの排水量を計算して処理能力を計算した。</p> <p>まず赤色で着色した優先区域については1日最大1,200トンの排水量を想定し、処理場についてもそれが処理できる能力という</p>

			<p>んでいるのか、この地域の使用料がいくらで、何人程度のキャパを要しているから、この浜田処理区の容量はどのくらいというような概要が示されていない。</p> <p>1日処理能力1,200トンということは、国府地区より1割増しくらいの想定をしているということではよろしいか。</p>	<p>ことで計算している。定住人口以外の人口については、別の機会でお示ししたい。</p> <p>その通りです。</p>
4	P7	宮本委員	<p>東部に比べて西部の普及率が半分にも満たず、特に浜田市が低いという理由を教えてください。</p>	<p>大きな理由としては松江・出雲・安来等、宍道湖周辺は流域下水道で県主導で市町村をまたがって複数の地域の整備をしている。</p> <p>西部では地形的な理由も考えられるが、県主導での整備はなく、複数の市町村をまたがった整備ができなかったのではないかと考える。</p>
5	P5 P6	三浦委員	<p>下水道のしくみで、微生物が汚れを食べてきれいにしますとあるが、今話題になっているマイクロプラスチック、合成洗剤の化学物質は微生物は食べないと思う。最終的に汚泥を肥料化され、年に何回か無料で配布されているが、そういったことで農家が自分の農地に化学物質を入れ、農地を汚染してしまう原因をこの仕組みが招いているのではないか。</p> <p>川海をきれいにするのであれば、まず家庭でマイクロカプセル洗剤を使用しないよう啓発することが、水産都市浜田として必要ではないかと思う。</p> <p>また、予定されている浜田処理区は最終処分場からかなり沖合の海に流されると聞いたが、やはり全てを微生物が食べてはくれないので、元を絶たない限</p>	<p>ご発言のとおり物質によっては処理がしにくいものもあるということを知っている。洗剤等の使用を控えていただくような普及啓発はしていきたいと思う。市街地の処理場の整備について、どこに流すかというところは協議中です。</p> <p>処理場でマイクロプラスチックを100%処理することは難しいと思う。公共下水道等で実験されている自治体では、おおむね処理はできるが100%ではないとのことである。</p> <p>ただし、現在は洗剤の排水等は全く未処理のまま川や溝に流れているのではないかとと思われるので、ご意見いただいたことも参考に整備を進めていきたい。</p>

			りはきれいな海川は保てないのではないかと思う。	
--	--	--	-------------------------	--

(2) 浜田市公共下水道事業経営戦略の見直しについて

	資料③	発言者	質問等要旨	回答要旨
1	-	佐古委員	水洗化率は、合併処理や浄化槽でなく公共下水道に接続した割合でよいか。	その通りです。
2	P11	豊田委員	<p>資産活用状況に、エネルギー利用該当なしとあるが、県の広域下水道では、汚水をメタン発酵させて発電し、収入を得たりしていたようである。1,200 m<sup>3</sup>でこれができるのかわからないが、地球温暖化が進む中、可能ならばそういった環境に配慮したことを展開していただきたい。</p> <p>流域は確かに県の事業で東部の地域は普及率が高いが、雲南や邑南、美郷などと比べて、浜田はなぜそんなに低いのかと思うので、そちらの政策で浜田に取り入れられることがあれば教えていただきたい。</p>	<p>再生可能エネルギーについては、浜田処理区の処理場の建設時、積極的に導入を考えていきたい。県の流域の方で、消化ガスで売電をしている。県へ問い合わせ、可能性を探ってみたが、県の何万トンの排水でも利益はトントンというところだったので、小規模になると今の技術では難しいのではないかと思うが、検討は続けていきたい。</p> <p>邑南町や美郷町が浜田市の普及率より高い理由までは把握していない。ただ、かなり早い段階から整備されていたのではないかと思う。そういった普及の進んでいる市町の声も聴きながら普及を進めていきたいと思うし、まずは浜田処理区の整備を全力でしていきたいと思う。一方で、集合処理以外のところは合併浄化槽の補助をしていきたい。</p>
3	-	渡辺委員	<p>三隅の火力発電所の件で流入量が増えているということだが、処理場の今の規模で間に合っているのか。</p> <p>普及率を令和8年度までに58%目標にするということだが、今までの緩やかな上がり幅を見ると、相当努力をしないと達成は難しいのではないか。</p>	<p>火電関係の流入の増加、統合事業で集落排水をつないでも間に合っている。</p> <p>令和8年度の上昇は主な要因として市街地下水道整備の供用開始があるため、市街地整備を成功させなければいけないというのが、一番重要なところであると考えている。</p>

4	P26	佐古委員	浜田処理区の事業費が45億ちよつとで、補助率が50%・55%と書いてあるが、45億に対して補助金が50%もらえるのか、90億に対して50%なのか。	45億に対して半分を国からもらえるということ。
5	-	鈴木会長	<p>浜田処理区の費用対効果が今後重要になってくるのではないかと思う。新しく下水道管を整備するので普及率が上がるのは当然だと思うが、大事なのは接続率がどのくらい上がり、収益になってくるのかというところで、どうやって接続率を上げていこうと考えているのか。</p> <p>費用の面で、設計から施工まで民間へ発注されると思うが、民間へ委託することで委託しないときに比べてどれだけの費用削減の効果があるのかを分かる範囲で教えていただきたい。</p>	<p>平成27年度に市街地下水道整備をするにあたり、審議会を開催し、接続率向上のための策を考えるように答申をいただいている。具体的な策はまだお示しできないが考えていきたい。また普及啓発が大変大切になってくると思う。昨年度から広報に合わせて発行している下水道通信をシリーズ化するなどし、積極的に普及啓発を行っていきたい。</p> <p>浜田処理区整備にあたっては、官民連携手法の導入を考えている。具体的には設計・施工の一括発注を目指し調査業務を行っているところで、費用対効果の数値も出てくる。設計施工一括発注をすることで、市の職員の負担も軽減することができると思う。こういったことを取り入れながら効率的な整備を進めていきたい。</p>

#### 4 報告事項

##### (1) 浜田処理区の負担金について

資料④に基づき、事務局から説明後、次のとおり質疑応答あり。

	発言者	質問等要旨	回答要旨
1	佐古委員	接続の負担金については随分前に審議会で答申をしたものだが、この金額を変えずにしていく。当初の接続率を最大限高めるためにこの方針で現在もいくということによいか。	おっしゃる通りです。

## 5 その他

第2回の審議会の開催について、7月中を予定しており、日程等決まればご連絡させていただきます。また、資料に「ご意見等記入票」を添付しており、気になる点やご質問があれば記入いただき、5月9日を目途として委員の皆さまからのご意見を提出していただき、5月末を目途に事務局で修正を行い、議会へ報告後、原案をお送りし、その後、7月中の開催を予定しております第2回目の審議会においてご意見等を賜りたいと考えている。